

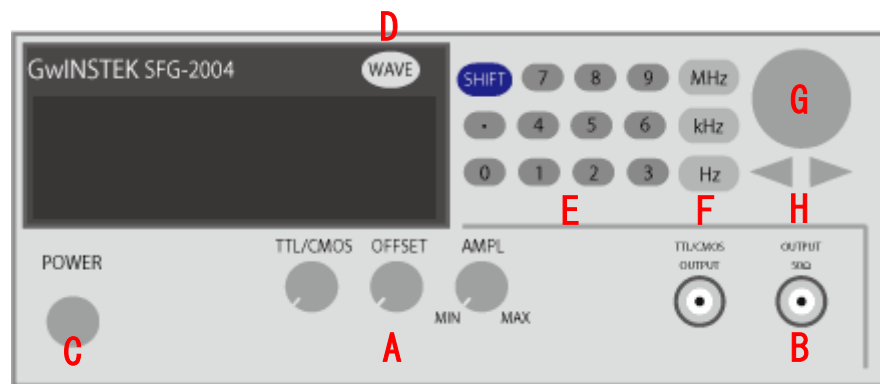
電気回路

-持ち出し禁止-

-基礎実験 A の web にも同じものを置いています-

1. 発振器の使用法

- 1)TTL/CMOS, OFFSET と発振出力 AMPL ボリューム(A)が最小となっていることを確認する.
- 2)ケーブルを OUTPUT の BNC 端子(B)に接続する.
- 3)電源ボタン(C)を押し, WAVE ボタン(D)を押して発振波形を矩形波にする. WAVE ボタンを押すたび sin 波, 矩形波, 三角波と順次切り替わる
- 4)テンキー(E)と単位ボタン(F)で発振周波数を設定する. 発振周波数は H の 2 つのボタンを押して表示周波数の桁数のいずれかを点滅させ, G を回してその桁を変更することも出来る.
- 5)観測しやすい波形となるよう AMPL つまみを回す.

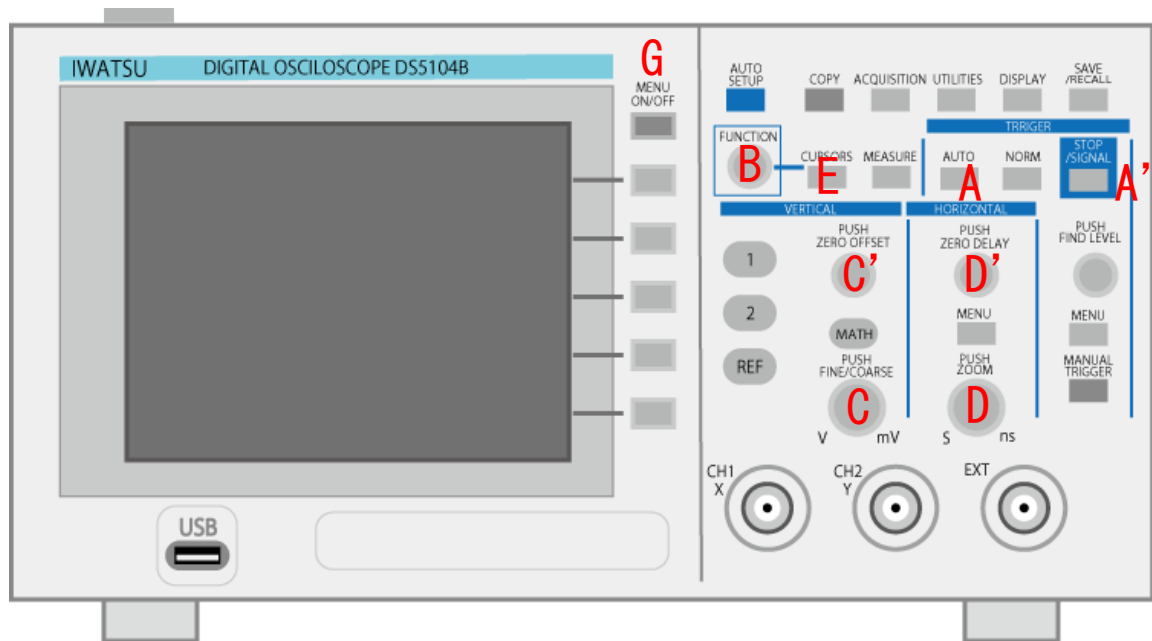


[注意] BNC コネクタの挿入方法

BNC のオス側には突起があるので, メスの溝を合わせて挿入し, 回転させてロックする. 外す際は逆回転してアンロックして引き抜く. ロックしたまま引っ張らないようにすること.



2. オシロスコープの利用方法



2-1 電圧軸(縦)と時間軸(横)の設定

CとDでVOLTS/DIVとTIME/DIV変更できる。設定値は画面下部に表示される。表示波形の移動はC'とD'で行う。

2-2 波形が停止したり動いたりするとき

通常はAボタンを押してトリガーAUTOで用いるが、波形が静止しない場合A'のストップボタンを押す。

2-3 カーソル機能を使った測定

表示波形の周期や電圧をカーソル機能で測定することが出来る。Eのカーソルボタンを数回押すと画面にカーソルとメニューが表示される。メニューの表示/非表示はGのon/offボタンで行う。カーソル形式Xが縦、Yが横カーソルとなる。Bつまみでメニュー下に表示されるCurA、CurBのうちいずれか一方または両方白く反転しているカーソルが移動できるので、波形に位置合わせをして表示値を読む。

3. プローブ

減衰振動～過減衰は100Hz程度の信号を測定するので**プローブはx1で測定する**。測定前にプローブ切り替えがx1となっていることを確認する必要がある。

